

2017年度(第3回)

日本セラミックス協会フェロー表彰

2010年の公益社団法人への移行後、本会は中期経営計画を策定し、その中で「表彰制度の在り方の見直し」を掲げ、表彰制度検討委員会を設置して検討を進めて参りました。その結果、協会創立125周年である一昨年から、新たに「日本セラミックス協会フェロー表彰」制度を導入しております。

本フェロー表彰は、本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた本会個人会員を本会として称え、日本セラミックス協会フェロー(英語名称: CerSJ Fellow)の称号を授与することで、本会を代表するに相応しい会員としての活動を続けていただくとともに、本表彰により会員の本会活動に対する参加意欲の増大を促し、セラミックス分野の更なる発展を図ることを目的としています。

フェロー表彰候補者選考委員会にて慎重な審議を行い、受賞候補者として次の10名の方が理事会に推薦され、2018年1月18日の理事会で最終的に受賞者として決定いたしました。ここに各受賞者のフェロー表彰推薦理由を紹介いたします。

なお、表彰式は、6月1日(金)東京(霞が関ビル内 東海大学校友会館)において開催の第93回定時総会後に行われます。

受賞者一覧

(10名 氏名五十音順、所属は受賞時点のもの)

小川 賢治	東ソー(株)	徐 超男	産業技術総合研究所
角野 広平	京都工芸繊維大学	虎溪 久良	HOYA(株)
小久保 正	京都大学, 中部大学	平田 好洋	鹿児島大学
後藤 孝	東北大学	福田功一郎	名古屋工業大学
篠崎 和夫	東京工業大学	矢野 豊彦	東京工業大学

2017年度フェロー候補者選考委員会 委員長: 牧島亮男, 委員: 安田榮一, 新原皓一, 岡田 清, 河本邦仁, 吉川信一
 ※本年4月号後付に2018年度フェロー候補者推薦募集要項を掲載しております。



おがわ けんじ
小川 賢治氏

小川賢治氏は、長年にわたってセメントの初期水和過程の解析を行い、セメント・コンクリートの品質管理上重要な研究を行った。本協会においては、行事企画委員長、副会長および経理事務を歴任し、主要な公益行事である研究発表会等を企画・実行するとともに、経営審議会では積極的に意見具申を行って協会活動の推進に尽力した。さらに運営委員会、国際交流委員会等に参加して、公益法人としての財務基準遵守のために多大の貢献を行った。

2009年支部振興功績賞、2016年功労賞を受賞。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。
略歴 1976年東京大学工学系大学院修士課程終了。小野田セメント(現太平洋セメント)(株)入社、1998年工学博士(名古屋大学)、2008年同社中央研究所長、2015年同社取締役専務執行役員、2016年東ソー(株)取締役。



かきの こうへい
角野 広平氏

角野広平氏は、永年、さまざまな非酸化物系でのガラス形成の調査を通して、無機ガラス系の多様性を拡大し、加えて、酸化物ガラスも含めたガラス材料の高機能化について研究を推進してきた。これらは、今後ガラス材料科学の発展につながるものと期待される。また、近年では、赤外光学材料としてのカルコゲン化合物ガラスの応用展開において、注目されている。本協会においては、学術論文誌編集委員、理事、関西支部企画委員長、支部

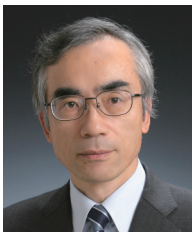
長等を務め、協会の活動に貢献してきた。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。
略歴 1980年名古屋大学卒業、1986年京都大学大学院工学研究科博士課程中退。同年大阪工業技術試験所(当時)入所。2001年産業技術総合研究所主任研究員、2006年より京都工芸繊維大学教授。工学博士(京都大学)。



こくぼ ただし
小久保 正氏

小久保正氏は、セラミックスの機能と構造の特徴をバイオマテリアルとして生かす方法を基礎的に追求し、その結果に基づき整形外科、歯科、がん治療などの分野でさまざまな疾患の治療に適用可能な新しい医療材料を世に送り出した。また本協会生体関連材料部会の設立と運営に大きな貢献を果たした。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会

フェロー表彰に値するものとして推薦する。
略歴 1962年大阪市立大学卒業。同年京都大学化学研究所助手、1974年同助教授、1987年同教授、1992年京都大学工学部教授、2003年同名誉教授、同年中部大学教授、2014年同大学名誉教授。



ごとう たかし
後藤 孝氏

後藤孝氏は気相法、液相法、固相法を用いて種々のセラミックスを創製し、製造プロセスとセラミックスの構造、特性の関係を調べ、セラミックスの高性能化および新機能の発現を図り、セラミックスの基礎科学を進展させた。本協会においては、論文誌編集委員長、部会長、理事、副会長等の役職を務めた。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会

フェロー表彰に値するものとして推薦する。
略歴 1975年3月東北大学工学部卒業、1977年3月同大学院修士課程修了、1978年12月同大学院博士課程中退。1979年1月同大学金属材料研究所助手、1988年同大学助教授、1998年同大学教授。



しのぎ かずお
篠崎 和夫氏

篠崎和夫氏は、セラミックスの各種物性がプロセスに敏感なことに注目し、バルクから薄膜まで、プロセッシングをキーワードに、多岐にわたる研究を行い、学術・研究に貢献している。また、本協会では運営委員長、論文誌編集委員長、標準化委員長、電子材料部会長、関東支部長等を努め、さらに理事、副会長として協会の発展に尽力した。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業

績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。
略歴 1981年東京工業大学大学院無機材料工学専攻博士課程修了。1982年東京芝浦電気(株)入社、1987年東京工業大学助手、1989年同大学助教授、2009年同大学教授、2004~2005年日本セラミックス協会副会長、工学博士。



じょ ちょうなん
徐 超男氏

徐超男氏は、繰り返し強く弾性変形発光する機能材料を発見。応力発光体と名付け、従来の延長線上にない分野を開拓。構造体にかかる応力分布の可視化手法、次世代評価技術「応力発光法」を創出した。ナノサイズのフォースセンサを実現し、生体内のイメージングやユビキタス光源に展開した。世界に先駆けて機構解明、計測原理の解明等によって、高機能応力発光材料、ハイブリッド化、新検査法の基盤技術を確認し、インフラ予防保全、設計・

製造・保守管理の応用を開拓した。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。
略歴 1991年3月九州大学博士課程修了(工学博士)。同年福岡大学助手、1998年工業技術院九州工業技術研究所主任研究官、産業技術総合研究所研究チーム長等を経て、総括研究主幹、2005年より九州大学客員教授兼任、現在に至る。



とらたに ひさよし
虎溪 久良氏

虎溪久良氏はレーザー、光ファイバー増幅、アップコンバージョン等の光機能性ガラス、磁気ディスク用の基板ガラスの研究開発に従事し、開発したレーザーガラスは各国のレーザー核融合研究施設で用いられている。また、本協会においては、協会理事および代議員を歴任し、同協会の事業にも大きく貢献し、第71回功労賞を受賞した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業

績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1974年京都大学大学院工学研究科修了。保谷硝子(株)入社、1997年HOYA(株)R&Dセンター開発研究所長、2000年EOカンパニーR&Dセンター長、2002年本社事業企画GM、2015年よりMD事業部技術アドバイザー、工学博士。



ひらた よしひろ
平田 好洋氏

平田好洋氏は、物理化学、無機化学、コロイド化学、破壊力学に立脚し、以下の機能性セラミックスの製造と物性解明に多大な貢献を行った。①ガラスフリー高強度ムライトの合成、②ナノ粒子コロイドプロセスの確立、③高靱性なアルミナ長繊維-鉄系複合材料の合成、④希土類固溶セリアを用いるバイオガスからの水素製造、⑤熱伝導度および熱膨張係数の理論モデル式の構築。また、本協会の基礎科学部会長、論文誌編集委員長、理事等も務め、本会の発展に尽力した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1976年鹿児島大学工学部応用化学科卒業、1978年同大学修士課程修了、1981年九州大学博士課程単位取得退学。同年鹿児島大学助手、1985年ワシントン大学博士研究員、1987年鹿児島大学講師、1989年同大学助教授、1994年同大学教授、工学博士。



ふくだ こういちろう
福田 功一郎氏

福田功一郎氏は回折法と顕微鏡法を相補的に駆使して酸炭窒化物系の新物質を探索し、新規材料としての機能発現に取り組んできた。その過程でセラミックスの結晶粒子が自己配向化する新規技術を独自に開発し、高イオン伝導性の多様な結晶配向セラミックスの作製に成功している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1984年3月東京大学理学部地学科卒業、1986年3月同大学大学院修士課程(鉱物学)修了。同年名古屋工業大学助手、1992年東京大学博士(理学)、2008年名古屋工業大学大学院教授。



やの とよひこ
矢野 豊彦氏

矢野豊彦氏は非酸化物バルクセラミックスを中心に、中性子照射環境、高温・耐プラズマ環境等の過酷環境下での劣化機構をミクロな視点で解明し特性発現との関連を明らかにするとともに、セラミックス基複合材開発を先導的に進め、学術賞を受賞している。また、本協会論文誌編集委員、協会誌編集長、学術写真賞選考委員会委員長、セラミックス工学ハンドブック編集委員、セラミックス大学講師等を歴任している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1975年東京工業大学無機材料工学科卒業、1977年同修士課程修了、1980年同博士課程修了(工学博士)。1982年長岡技術科学大学助手、1985年東京工業大学原子炉工学研究所(現先端原子力研究所)助手、1992年同助教授、2002年同教授、2013年同所長。